

2023年3月1日

2022年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
課題研究

看護師が重要な情報を認識するための要因
—文献レビューによる探索—

Factors That Enables Nurses to Recognize Priority Concerns
—Exploration Through Literature Review—

21MN037
矢崎紗綾

要旨

〈目的〉本研究は重要な情報を認識している看護師の資質・能力と臨床の背景について先行研究より知見を抽出することで、新人看護師及び看護学生への学習方策を検討する。

〈方法〉文献レビューを実施した。文献の検索は、sense of salience, discern important, stand out, notable significance ,priority concerns, pay attention first ,grasp of patient data, relevant situation, nurse をキーワードとし、student を除外した。検索サイトはPubMed、CINAHL を使用し、2017年から2022年10月までを対象期間とした。研究対象が看護師以外であるもの、情報収集の対象が患者家族やスタッフなど患者本人以外であるもの、情報収集、情報の認知、臨床判断と関連する内容でないもの、ガイドライン、プログラムの評価に関する研究であるものは除外した。対象文献より重要な情報を認識している看護師の資質・能力と臨床の背景を抽出し、統合した。

〈結果〉25件の対象文献より、看護師が重要だと認識している情報および重要な情報を認識する看護師の資質・能力と臨床の背景が示された。看護師が重要だと認識している情報は病院において「恒常性と制御」が最も多かった。救急外来では、「個人の嗜好」が、他部門連携では、「恒常性と制御」、病院外では「防御と動き」の情報が最も多く収集された。

重要な情報を認識する看護師の資質・能力として【疾病治療に関する知識】、【患者の特徴を捉えるための知識】、【患者の看護に関する知識】、【他職種との協働に関する知識】、【教育に対する価値観】、【患者の看護に対する価値観】、【患者の権利擁護と倫理に対する価値観】、【専門職として働くことに対する価値観】、【看護師の信念】、【患者への先入観】、【疾患に対する先入観】が示された。「患者要因」では、反応の典型的パターンとして【患者の典型的な反応】、【家族の典型的な反応】が示され、価値観と嗜好は【患者の価値観】、【患者の嗜好】の категорияが示された。「臨床の文脈」は【看護と協働に関する文化】、【倫理的な看護の障壁となる文化】、【日常の看護実践の現状】、【日常の業務量に対する時間】、【教育に対する日常の実践】が示された。

〈結論〉重要な情報を認識する看護師の資質・能力は看護師の多様な知識、看護に対する価値観、先入観などが統合された形として示される能力であった。また、看護師個人の能力だけでなく患者要因や日常の実践が影響していることが示唆された。本研究の知見は、重要な情報を認識する看護師が有する資質・能力および臨床の背景を言語化し、OJT や実習を通して新人看護師及び看護学生に学習支援する際に活用できる。